

あまクイーン、紅クイーンの栽培上の特性

【背景・目的・成果】

直売や観光に適した兵庫県オリジナルイチゴ品種「あまクイーン(兵庫I-3号)」、「紅クイーン(兵庫I-4号)」を育成しました。それらの現地普及のため、両品種の栽培特性を明らかにし、収量品質を高める栽培法を開発しました。

あまクイーン

特長

イチゴらしいかわいい姿、糖度が高くておいしさ自慢の品種です。



栽培のポイント

・室温が低いと株が弱りやすく収量が減るため、電照や暖房を利用して株の勢いを維持します。

紅クイーン

特長

ボリューム感たっぷりの大果で、甘さと酸味が調和、歯触りしっかりの品種です。



栽培のポイント

・寒いと基部が白く残るので、果温を高くします。
・開花がやや遅いため、培地冷却で促進します。

【1. 草勢維持のための電照技術】

・段階的な時間帯延長が効果的です。11/上に開始し(17~21時)、12/下頃に17-24時に延長します。

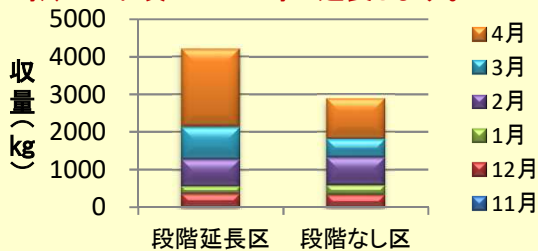


図1 あまクイーン月別収量の比較(10a当たり)
段階的な電照延長により、厳寒期の開花がスムーズとなり、3~4月の収量が上りました。

【2. 灌水量を2月から増加】

・他品種より早い2月から水量を増やします。

【3. 温床線による培地加温】

・高設栽培装置に温床線を入れて加温します。培地が暖かく、寒さに弱い「あまクイーン」も元気です。

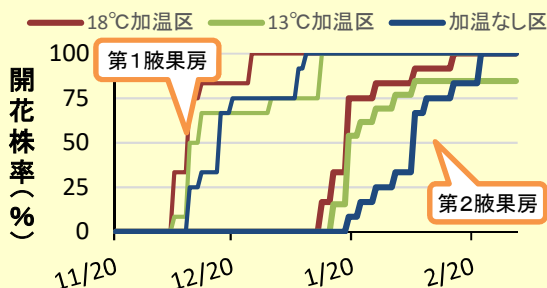


図2 培地加温による開花促進
厳寒期に草勢確保でき、第2腋果房開花がスムーズに。

【1. 果実着色促進技術】

・昼温を28°C程度まで高めに管理し、光に良く当てます。
・防除用のUV+光反射シートにも着色促進効果があります(UVの刺激+受光改善)。
・厳寒期は収穫適期に注意します。



写真 収穫適期(先端が傷む前にここまで着色可能)

【2. 培地送風冷却】

・高設栽培装置内に定植直後から送風することで培地温度を下げます。
・イチゴは、低温と短日によって花芽をつけるため、冷却によって開花を早められます。

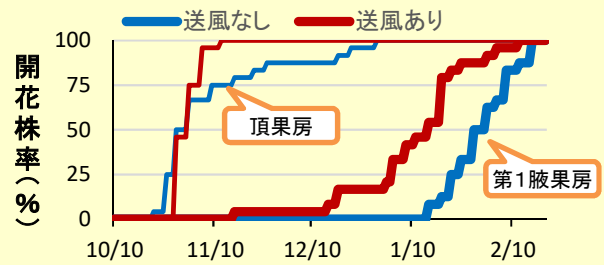


図3 培地送風の有無による開花促進
頂果房の開花安定と第1腋果房の開花促進が期待できます。

【技術の活用】

既存の栽培マニュアルに得られた知見を加え、マニュアルの充実を行う予定です。



兵庫県
Hyogo Prefecture

兵庫県立農林水産技術総合センター
農業技術センター

研究成果紹介
動画サイト

